



<取材のお願い>

2022年12月5日

佐世保工業高等専門学校

JST さくらサイエンスプログラム推進本部

タイの大学生が日本型ものづくりを実践的に学ぶ ～日本と母国の架け橋となる技術者育成を目指して～

佐世保工業高等専門学校では12月11日(日)～12月17日(土)、タイの泰日工業大学から、学生10名、教員1名の計11名を招き、日本型のものづくりを実践的に学ぶ交流プログラムを行います。

泰日工業大学は、2007年に「日本型ものづくり」を目指して開学された私立大学です。日本の高専制度と理念や教育方法に類似点が多く、国際交流を通して学生・教員とも相互に学び合える環境にあります。多くの学生が英語以外に日本語を学び、卒業生の約4割が日系企業に就職していることは特筆すべき事項です。

本プログラムでは、高専生と招へい学生が混成チームを組み、プロダクト・デザインの体験コンペを行います。各チームで話し合ったアイデアを基にしたプロトタイプ的设计和、3Dプリンタを用いて時間内に形にすることで、実践性の高いものづくり交流を図ります。

また、株式会社大島造船所(佐世保市・西海市)、株式会社安川電機(北九州市)、TOTO株式会社(北九州市)など、九州の各地域で活躍する様々な形態の企業を訪問し、日本型ものづくりの歴史や海外事業展開を含めた現状について学びます。本校と包括連携協定を締結している大島造船所では、厳しい国際競争の中、造船業で生き残ってきた経緯とそれを支えた技術について、社員から直接学ぶ機会も設けました。

さらに、福岡市では「Engineer Café」、FUKUOKA growth next 内「スタートアップカフェ」を訪問し、各人が起業に関するテーマを設定し、情報収集や企業調査を行う「アントレプレナーシップ・フィールドワーク」を展開し、調査結果について発表・議論を行います。

本プログラムが、将来、母国と日本の架け橋となって世界で活躍するタイの技術者を育成するきっかけとなることが期待できます。

今回の交流プログラムは科学技術振興機構(JST)主催の「国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)」に採択されたものです。今回で3回目の採択となりますが、実際にタイから学生を招へいして実施するのは、2019年度以来、3年ぶりになります。



<参考>

2021年度 活動レポート(オンライン)

https://ssp.jst.go.jp/report/2021/k_vol075.html



2019年度 活動レポート

https://ssp.jst.go.jp/report/2019/k_vol298.html



つきましてはご多忙中とは存じますが、泰日工業大学の学生と本校の学生が課題に取り組む様子、九州各地域の企業で実務現場を体験する様子、アントレプレナーシップ・フィールドワークに挑戦する様子などを取材して頂きたいお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の三橋和彦教授へのインタビュー取材もアレンジが可能です。ご希望の方は担当者までご連絡ください。

【実施内容】

- プロダクト・デザイン体験コンペ
- 九州各地域の企業訪問
- アントレプレナーシップ・フィールドワーク

【研修日程予定概要】

- 12月11日(日) 午後:到着
- 12月12日(月) 午前:大島造船所訪問(西海市)
午後:佐世保市内・歴史・産業遺産見学
- 12月13日(火) 午前:高専生によるウェルカムイベント
午後:国際技術者コミュニケーションコース(4年生)との交流
* 4年生選択科目として英会話を学ぶ学生たちと、日本文化や科学技術に関するポスター発表を通して交流を図る。
- 12月14日(水) 終日:プロダクト・デザイン体験コンペ
- 12月15日(木) 午前:安川電機訪問(北九州市)
午後:TOTOミュージアム訪問(北九州市)
- 12月16日(金) 午前:九州国立博物館訪問(太宰府市)
午後:アントレプレナーシップ・フィールドワーク(福岡市)
- 12月17日(土) 午前:福岡空港へ移動
午後:帰国



＊「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」

科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>



■本件事業に関するお問い合わせ先

佐世保工業高等専門学校
校長補佐(国際交流) 三橋和彦

■国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室